

2012年 日本産業広告賞入賞作品

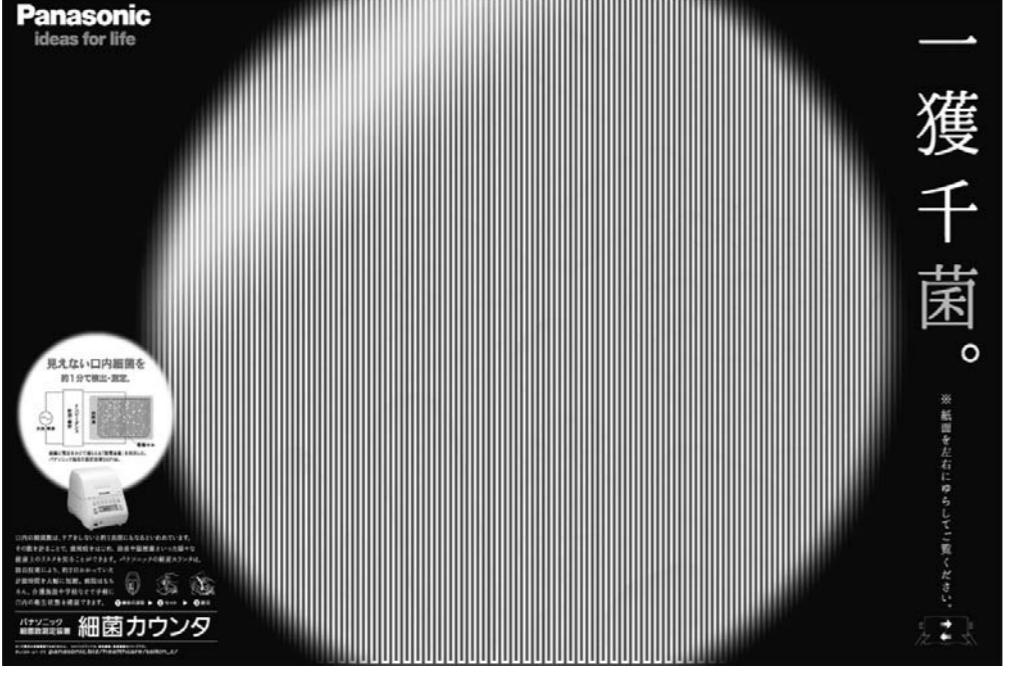
日本産業広告賞は、日刊工業新聞社が産業広告の健全な発展と質的向上を図る目的で1966年に制定し、今年で47回目を迎えた。今回は新聞部門が83件129作品、雑誌部門が15件15作品、情報誌部門が9件9作品と、いずれの部門にも数多くの優れた作品がエントリーされた。

2012
日本
産業
広告
賞
第47回

新聞部門

第1席 パナソニック

掲載日 9月12日／スペース 全30段



見えない口内細菌を素早く検出・測定する商品特性を訴求する方法がとてもユニークだ。紙面を見ていても縦縞しか見えてこない。ところが指示通りに紙面を左右にゆするとどうだろう、隠れた細菌が現れてくるではないか。見せるだけの新聞広告から

体感させるものへのシフトが確実に起こっている。審査会場でも審査員がゆさゆさとゆすって歓声を上げていた。広告主とクリエーターのアイデア、そして新聞社の高度な印刷技術が三位一体となった作品である。

日刊工業新聞広告大賞

第1部



審査委員長
嶋村 和恵
早稲田大学
商学部
大学院商学研究科
助教

長引く景気低迷、昨年の東日本大震災による打撃、昨今の外交問題など、日本社会がこれまでなく厳しい状況にある中、今年も日本産業広告賞審査会が行われた。応募されている広告主は日本企業だけではないが多くの広告作品を審査する、日本企業の絶え間ない努力を知ることになり感動を覚えることも多い。

品について一言ずつ述べた。今回第1席に入席した作は日本企業だけではないそれが統合され大きな力になるだろう。

ある大きな白丸が描かれて黒い画面の中に細い縦縞のある大きな白丸が描かれてる。」紙面を左右にゆらして「見ください。」と

いう指示に従うと、縦縞の間に顕微鏡写真で見たことある細菌のような形が見える。まさに広告賞にふさわしい作品といえるだろ

う。新聞広告部門第1席はパナソニックの広告である。「懸念する

金ならぬ「一獲千菌」というヘッドラインのちい

黒い画面の中に細い縦縞の

ある大きな白丸が描かれてる。」紙面を左右にゆらして「見ください。」と

いう指標に従うと、縦縞の間に顕微鏡写真で見たことある細菌のような形が見える。まさに広告賞にふさわしい作品といえるだろ

う。新聞広告部門第1席はパナソニックの広告である。「懸念する

金ならぬ「一獲千菌」というヘッドラインのちい

黒い画面の中に細い縦縞の

ある大きな白丸が描かれてる。」紙面を左右にゆらして「見ください。」と

いう指標に従うと、縦縞の間に顕微鏡写真で見たことある細菌のような形が見える。まさに広告賞にふさわしい作品といえるだろ

う。新聞広告部門第1席はパナソニックの広告である。「懸念する

金ならぬ「一獲千菌」というヘッドラインのちい

黒い画面の中に細い縦縞の

ある大きな白丸が描かれてる。」紙面を左右にゆらして「見ください。」と

いう指標に従うと、縦縞の間に顕微鏡写真で見たことある細菌のような形が見える。まさに広告賞にふさわしい作品といえるだろ

う。新聞広告部門第1席はパナソニックの広告である。「懸念する

金ならぬ「一獲千菌」というヘッドラインのちい

黒い画面の中に細い縦縞の

ある大きな白丸が描かれてる。」紙面を左右にゆらして「見ください。」と

第2席 三菱電機

掲載日 9月5日／スペース 全30段



パッと見、化粧品会社が高級ブランド品の広告かと思ってしまう美しい作品である。「赤」という色がこんなにも種類があるのかと驚かされる。ついで細部にわたってどんな赤色なのかじっくりと観察してしまった。何よりもこのような微妙な色の違いを再現できる同社の技術とレザーガラス搭載液晶テレビの品質の高さを十分に訴求している。また「フルカラー」とはいふ新聞紙面でこれだけの色を再現している。新聞印刷の技術力を存分に利用した作品である。

第3席 東芝

掲載日 9月11日／スペース 全30段



LEDといえば、美しい色の再現と消費電力の劇的な削減に貢献する照明の代名詞である。ついに同社のLEDがルーヴル美術館サボレオン広場で全面点灯した。ルーヴル美術館はそれ自体で一つの芸術作品といえる外観を有している。それを美化ライティングすることは、この作品のヘッドラインにある「それはルーヴルが誇るもうひとつの作品」。そのものである。日本技術が世界最高峰の美術館を彩ることに日本人として誇りを感じる。

選評

新聞部門第1部は、スペース30段(連版を含む)以上の広告作品が対象であり、7社7件7作品の応募点数があつた。この部門は最大スペースを使いながら、新聞の広告を追求できるあらゆる手段を駆使した作品が登場している。スペースが

LEDといえば、美しい色の再現と消費電力の劇的な削減に貢献する照明の代名詞である。ついに同社のLEDがルーヴル美術館サボレオン広場で全面点灯した。ルーヴル美術館はそれ自体で一つの芸術作品といえる外観を有している。それを美化ライティングすることは、この作品のヘッドラインにある「それはルーヴルが誇るもうひとつの作品」。そのものである。日本技術が世界最高峰の美術館を彩ることに日本人として誇りを感じる。

新聞部門第1部は、スペース30段(連版を含む)以上の広告作品が対象であり、7社7件7作品の応募点数があつた。この部門は最大スペースを使いながら、新聞の広告を追求できるあらゆる手段を駆使した作品が登場している。スペースが

LEDといえば、美しい色の再現と消費電力の劇的な削減に貢献する照明の代名詞である。ついに同社のLEDがルーヴル美術館サボレオン広場で全面点灯した。ルーヴル美術館はそれ自体で一つの芸術作品といえる外観を有している。それを美化ライティングすることは、この作品のヘッドラインにある「それはルーヴルが誇るもうひとつの作品」。そのものである。日本技術が世界最高峰の美術館を彩ることに日本人として誇りを感じる。